



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年2月8日

上場会社名 アルコニックス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3036 URL https://www.alconix.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員COO (氏名) 手代木 洋
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員CSO (氏名) 鈴木 匠 TEL 03-3596-7400
 コーポレート部門長
 四半期報告書提出予定日 2023年2月13日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	135,712	18.9	7,255	△13.9	7,650	△13.1	5,092	△22.1
2022年3月期第3四半期	114,176	—	8,430	—	8,805	—	6,537	—

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 8,399百万円 (△0.9%) 2022年3月期第3四半期 8,473百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	169.26	—
2022年3月期第3四半期	257.11	257.05

(注) 2023年3月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	198,133	64,122	32.1
2022年3月期	176,437	57,331	32.2

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 63,506百万円 2022年3月期 56,817百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	24.00	—	28.00	52.00
2023年3月期	—	26.00	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	—	—	26.00	52.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	170,000	8.8	9,100	△17.4	9,000	△18.3	6,800	△9.4	225.87

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2023年3月期の連結業績予想については、[添付資料]4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 1社 （社名）株式会社ソーデナガノ 除外 1社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、[添付資料] 9 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（注）詳細は、[添付資料] 9 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

2023年3月期3Q	31,012,500株	2022年3月期	30,977,000株
2023年3月期3Q	907,207株	2022年3月期	907,207株
2023年3月期3Q	30,089,150株	2022年3月期3Q	25,428,337株

（注）当社は「株式給付信託（BBT）」を導入しており、株主資本において自己株式として計上されている「株式給付信託（BBT）」に残存する自社の株式は、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料] 4 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における国内外の経済情勢は、中国経済の減速やウクライナ情勢の長期化の他、エネルギー・資源価格の高騰、急激な円安並びに金利上昇等により物価上昇が進行し、総じて先行き不透明な状況で推移いたしました。

当社グループを取巻く業界では、幅広い用途で需要が拡大してきた半導体・電子部品が第2四半期連結累計期間以降、世界的なインフレからくるユーザーの購買力低下によりスマートフォンをはじめとした民生機器の販売が減速し、これに伴い一部の半導体製造装置に受注調整が生じる等、需要は低調に推移いたしました。また自動車関連は、当第3四半期連結会計期間に入り部品調達不足の改善や完成車メーカーによる増産が計画され需要に持ち直しがみられたものの、台風等自然災害の影響や断続的なサプライチェーンの混乱等により国内生産が落ち込み、本格的な回復基調には至りませんでした。

このような経済環境のもと、当社グループの売上高においては半導体製造装置向け金属加工部品、めっき材料等の出荷、及び電子部品、半導体材料向けニッケル製品、アルミ圧延品等の取扱高が前年同期に比べ増加いたしました。国内自動車生産の低迷の影響を受けた精密金属プレス部品、関連材料の出荷は前年同期に比べ減少いたしました。損益面においては、円安による仕入価格の上昇や連結子会社の新規取込に伴う販売費及び一般管理費の増加等により営業利益及び経常利益は前年同期比で減益となりました。なお、親会社株主に帰属する四半期純利益は、製造子会社の株式取得に伴う負ののれん発生益を特別利益に計上したものの税金費用を控除した結果、前年同期比で減益となりました。

当第3四半期連結累計期間における主な経営成績は次のとおりであります。

	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同期比増減額 (百万円)	前年同期比増減率 (%)
売上高	114,176	135,712	21,535	18.9
営業利益	8,430	7,255	△1,174	△13.9
経常利益	8,805	7,650	△1,155	△13.1
親会社株主に帰属する 四半期純利益	6,537	5,092	△1,445	△22.1

当第3四半期連結累計期間におけるセグメントの業績は次のとおりであります。また、各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

		前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同期比 増減額 (百万円)	前年同期比 増減率 (%)
商社流通 －電子機能材	売上高	26,363	35,317	8,954	34.0
	セグメント利益	3,183	3,374	190	6.0
商社流通 －アルミ銅	売上高	45,497	49,803	4,306	9.5
	セグメント利益	1,631	1,301	△330	△20.2
製造 －装置材料	売上高	26,761	31,559	4,797	17.9
	セグメント利益	1,233	1,106	△126	△10.3
製造 －金属加工	売上高	20,753	21,478	724	3.5
	セグメント利益	2,754	1,883	△870	△31.6

・商社流通－電子機能材事業

電子部品向け部材及び半導体材料向けニッケル製品は幅広い用途での需要増を受けて取扱高は堅調に推移いたしました。二次電池材料は、中国経済及びスマートフォン関連需要の減速の影響により前年同期に比べ取扱高が減少いたしました。一方、レアメタル・レアアースは、自動車関連の低調な生産の影響により取扱数量は伸び悩みましたが、市況の上昇等もあり売上及び利益は前年同期に比べ増加いたしました。

・ 商社流通－アルミ銅事業

製品分野においては、堅調な国内建設需要を背景にアルミ圧延品及び銅管等伸銅品の取扱いが前年同期に比べ増加いたしました。I T関連需要の減速により電子部品向け伸銅品の取扱いは前年同期に比べ減少いたしました。原料分野においては、低調な自動車生産の影響により銅・アルミスクラップ及びアルミ再生塊の取扱数量は共に前年同期に比べ減少いたしました。非鉄市況の上昇及び円安の影響によりアルミ再生塊の取扱高は前年同期に比べ増加いたしました。

・ 製造－装置材料事業

材料分野においては、米国及び中国の両拠点におけるめっき材料の需要拡大と市況上昇により出荷が前年同期に比べ増加いたしました。装置分野においては探傷剤及びペイント等消耗材料の出荷が国内外で堅調でありましたが、自動車を中心とした部品の調達不足による顧客の操業低下等の影響により非破壊検査及びマーキング双方における装置需要が落ち込み、出荷が前年同期に比べ減少いたしました。

・ 製造－金属加工事業

半導体製造装置のうちプロセス用処理装置の出荷・販売は高水準に推移しており、また工作機械は生産現場の自動化、EVを含む脱炭素関連の設備投資が好調なことから、これら需要に対応した精密金属加工部品の出荷が堅調に推移いたしました。また、半導体実装装置向け精密研削加工部品の出荷は、スマートフォン向け需要の減速の影響を受けて低調でありました。一方、精密金属プレス部品は顧客からの引合は強い一方で国内外での自動車生産が低調であったことから、出荷は前年同期に比べ減少いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態

a. 流動資産

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は150,993百万円であり、前連結会計年度末比15,873百万円の増加となりました。主な内訳は、現金及び預金の増加7,610百万円、受取手形及び売掛金の増加5,195百万円、及び棚卸資産の増加3,376百万円であります。

b. 固定資産

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は47,140百万円であり、前連結会計年度末比5,822百万円の増加となりました。主な内訳は、ジュピター工業株式会社及びその海外子会社、並びに株式会社ソーデナガノの連結取込と製造子会社による設備投資に伴う有形固定資産の増加6,712百万円、無形固定資産の償却による減少528百万円、及び投資その他の資産の減少362百万円であります。

c. 流動負債

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は106,041百万円であり、前連結会計年度末比11,397百万円の増加となりました。主な内訳は、短期借入金の増加11,798百万円、コマーシャル・ペーパーの増加1,999百万円、1年内返済予定の長期借入金の減少729百万円、未払法人税等の減少1,482百万円、及び支払手形及び買掛金の減少1,084百万円であります。

d. 固定負債

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は27,970百万円であり、前連結会計年度末比3,507百万円の増加となりました。主な内訳は、長期借入金の増加1,880百万円、長期未払金の増加1,471百万円、及び社債の減少75百万円であります。

e. 純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産は64,122百万円であり、前連結会計年度末比6,790百万円の増加となりました。主な内訳は、利益剰余金の増加3,451百万円、為替換算調整勘定の増加4,500百万円、その他有価証券評価差額金の減少823百万円、及び繰延ヘッジ損益の減少486百万円であります。

②経営成績

a. 売上高

売上高は前年同期比で増収を確保したものの、中国経済の減速、世界的なインフレの他、エネルギー・資源価格の高騰、急激な円安、並びに金利上昇による物価上昇等、当社グループを取り巻く事業環境は不透明感が深まっております。取扱品及び製品別でみると、商社流通では半導体材料向けニッケル製品、アルミ圧延品の取扱いが前年同期に比べ増加いたしました。I T関連機器需要の減少により電子材料向け伸銅品、及び低調な自動車生産の影響によりアルミ原料、銅スクラップ等の非鉄原料の取扱いが前年同期に比べ減少いたしました。

製造では半導体実装装置向け精密研削加工部品がスマートフォン向け需要の減速の影響を受けて出荷が前年同期に比べ減少いたしました。半導体製造装置向け精密切削加工部品及びめっき材料の出荷が堅調に推移いたしました。しかし低調な自動車生産の影響により精密金属プレス部品、カーボンブラシ等素材、非破壊検査及びマーキング等の出荷は前年同期に比べ減少いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は135,712百万円（前年同期比18.9%増加）となりました。

b. 売上総利益

商社流通及び製造は共に増収を確保したことから、当第3四半期連結累計期間における売上総利益は19,410百万円（前年同期比0.2%増加）となりました。

c. 販売費及び一般管理費

ジュピター工業株式会社の損益取込み、及び営業費用の費消が前年同期に比べ増加し、当第3四半期連結累計期間における販売費及び一般管理費は12,154百万円（前年同期比11.1%増加）となりました。

d. 営業利益

上記の結果、当第3四半期連結累計期間における営業利益は7,255百万円（前年同期比13.9%減少）となりました。

e. 営業外収益、営業外費用

受取配当金、及び為替差益等の計上により、営業外収支（営業外収益－営業外費用）は394百万円の収入超となりました（前年同期は375百万円の収入超）。

f. 経常利益

上記の結果、当第3四半期連結累計期間における経常利益は7,650百万円（前年同期比13.1%減少）となりました。

g. 特別利益、特別損失

製造子会社の株式取得に伴う負ののれん発生益、及び投資有価証券売却益等の特別利益558百万円を計上する一方、連結子会社によるのれん償却額、及び固定資産除却損等の特別損失245百万円を計上いたしました。

h. 親会社株主に帰属する四半期純利益

税金等調整前四半期純利益7,963百万円から、法人税等2,789百万円、連結子会社12社における非支配株主に帰属する四半期純利益81百万円を差引き、当第3四半期連結累計期間における親会社株主に帰属する四半期純利益は5,092百万円（前年同期比22.1%減少）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点において、2022年5月13日の「2022年3月期決算短信[日本基準]（連結）」で公表いたしました通期連結業績予想を変更していません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,689	34,300
受取手形及び売掛金	59,415	64,611
商品及び製品	35,974	38,046
仕掛品	4,049	4,460
原材料及び貯蔵品	3,641	4,536
その他	5,989	5,913
貸倒引当金	△642	△874
流動資産合計	135,119	150,993
固定資産		
有形固定資産	25,061	31,774
無形固定資産		
のれん	1,887	1,550
その他	2,816	2,624
無形固定資産合計	4,703	4,175
投資その他の資産	11,553	11,191
固定資産合計	41,317	47,140
資産合計	176,437	198,133
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	43,408	42,324
短期借入金	31,590	43,389
コマーシャル・ペーパー	4,999	6,998
1年内返済予定の長期借入金	6,208	5,478
1年内償還予定の社債	149	75
未払法人税等	2,682	1,200
賞与引当金	1,244	802
その他	4,358	5,772
流動負債合計	94,643	106,041
固定負債		
社債	325	250
長期借入金	18,525	20,405
役員退職慰労引当金	447	281
役員株式給付引当金	92	92
退職給付に係る負債	994	1,112
長期未払金	133	1,604
その他	3,943	4,222
固定負債合計	24,462	27,970
負債合計	119,106	134,011

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,787	5,810
資本剰余金	5,238	5,261
利益剰余金	40,563	44,014
自己株式	△1,157	△1,157
株主資本合計	50,431	53,929
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,238	1,415
繰延ヘッジ損益	321	△164
為替換算調整勘定	3,825	8,326
その他の包括利益累計額合計	6,386	9,577
新株予約権	51	48
非支配株主持分	462	567
純資産合計	57,331	64,122
負債純資産合計	176,437	198,133

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	114,176	135,712
売上原価	94,807	116,302
売上総利益	19,368	19,410
販売費及び一般管理費	10,938	12,154
営業利益	8,430	7,255
営業外収益		
受取利息	34	38
受取配当金	410	411
為替差益	65	324
その他	428	387
営業外収益合計	939	1,162
営業外費用		
支払利息	385	574
その他	178	192
営業外費用合計	563	767
経常利益	8,805	7,650
特別利益		
固定資産売却益	5	64
負ののれん発生益	—	346
投資有価証券売却益	274	87
その他	27	59
特別利益合計	308	558
特別損失		
固定資産売却損	0	5
固定資産除却損	13	62
投資有価証券評価損	45	—
のれん償却額	—	170
その他	2	6
特別損失合計	61	245
税金等調整前四半期純利益	9,052	7,963
法人税等	2,423	2,789
四半期純利益	6,629	5,174
非支配株主に帰属する四半期純利益	91	81
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,537	5,092

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	6,629	5,174
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	108	△823
繰延ヘッジ損益	62	△486
為替換算調整勘定	1,629	4,680
持分法適用会社に対する持分相当額	44	△145
その他の包括利益合計	1,844	3,225
四半期包括利益	8,473	8,399
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,367	8,283
非支配株主に係る四半期包括利益	106	115

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う会計上の見積りについて)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の当社グループに与える影響等を含む仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	商社流通		製造		
	電子機能材	アルミ銅	装置材料	金属加工	
売上高					
顧客との契約から生じる収益	22,755	44,513	26,409	20,497	114,176
外部顧客に対する売上高	22,755	44,513	26,409	20,497	114,176
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,607	983	352	255	5,199
計	26,363	45,497	26,761	20,753	119,375
セグメント利益	3,183	1,631	1,233	2,754	8,802

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	8,802
セグメント間取引消去	3
四半期連結損益計算書の経常利益	8,805

II 当第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	商社流通		製造		
	電子機能材	アルミ銅	装置材料	金属加工	
売上高					
顧客との契約から生じる収益	34,463	49,071	31,030	21,147	135,712
外部顧客に対する売上高	34,463	49,071	31,030	21,147	135,712
セグメント間の内部売上高又は振替高	853	731	528	331	2,445
計	35,317	49,803	31,559	21,478	138,157
セグメント利益	3,374	1,301	1,106	1,883	7,665

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	7,665
セグメント間取引消去	△15
四半期連結損益計算書の経常利益	7,650

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「金属加工」セグメントにおいて、株式の取得によりジュピター工業株式会社、同社子会社の青島木星電子有限公司及び蘇州木星電子有限公司、並びに株式会社ソーデナガノを連結の範囲に含めております。当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、346百万円であります。

4. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第1四半期連結会計期間において、ジュピター工業株式会社、同社子会社の青島木星電子有限公司及び蘇州木星電子有限公司を、当第3四半期連結会計期間において、株式会社ソーデナガノを連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度の末日に比べ、「金属加工」のセグメント資産が、16,102百万円増加しております。